

「日本基督同胞教会史」研究会
「日本基督同胞教会年会記録」を読み解く
 年会第1回～第13回

原 牧人

米国基督同胞教会が、日本に伝道を開始したのは1895年(明治28年)。以来、東京、千葉、神奈川、静岡、名古屋、滋賀、京都、大阪、神戸など各地で伝道活動が展開され、多くの教会が生み出された。

年々各地に教会が設立されていく中で、教会運営のことなどで様々な課題が生まれ、さらに積極的に伝道活動を推進していくためにも、今後、日本基督同胞教会がどのような伝道方針を掲げて活動を展開していくかなどを、一同に会して協議する必然性が高まっていったと思われる。そのため1901年(明治34年)、宣教師及び教役者の殆どの出席を得、第1回の「日本基督同胞教会年会」(以下、年会)が開催されることとなる。それ以降、年会は毎年開催され、1941年の日本基督教団の設立まで41回開催された。(第1回が1901年、最後の第41回が1941年開催であり、覚えやすい)

日本基督同胞教会史研究会では、2021年6月に開催された第1回研究会以降、年会記録から同胞教会の原初の事情をはじめ、その後の各教会の活動内容や課題など、その歴史の流れを辿っていく作業を始めている。研究員が41回分を分担して分析報告することになっており、ここには第1回から第13回までの年会記録の内容を簡潔に記すことにする。年会での協議内容は総理の演説から始まり、各教会の現状報告や各委員会報告など多岐にわたるため、誌面の都合上、特記すべき事項だけを取り上げてみた。

なお、年会41回のうち、第13回までは邦文の記録が散逸しており、英文で残されていた記録を翻訳、第14回以降は内容が詳細に記録されているが、第16回、第17回、第19回、第20回、第22回が欠落しており、もし所在がわかれば、お伝えいただければと思う。

◇第1回年会

○第1回年会は明治34年(1901年)7月12日午後7時から13日にかけて、神田・

基督教青年会館にて開催された。出席者は11名（年会記録に氏名が記載）。議長はハワード師。

開会后、ハワード議長は開会の演説において、合衆国における同胞教会の組織及び各伝道地における教会の進歩について簡明に説明を行い、特に日本における事業について詳述された。

- 各教職者から、遣わされた教会の現状報告、事業報告などが行われた。ニップ師は、同志社、その他の学校における事業は適切に運営されており、その監督の下に同志社に学びつつある神学生は、日曜学校を開き、積極的に福音を述べ伝えつつあると報告した。
- 教理条例翻訳委員会からの報告や提案があり、さらに日本メソジスト教会との合同問題が論議された。和田肇師は「合同という観念は結婚という事にたとえられる。夫や妻が互いに信頼関係にある時は良いが、教会がメソジストならんことを欲せず、ただ教会たらんことを欲す然りその目的が人を救うことにある教会たらん事を欲す」と。

また中島錦五郎師は「もし合同が基督教の全体に貢献する所あらば、合同を希望する。しかしもし既存の教会を破壊して、新教会を建設せんとするならば良いが、古き教会をもって新団体を縫合せんとならば喜ぶことはできない」と語った。

- 婦人伝道者のことが議論され、女執事として会議には出席することは決議されたが、投票権は与えられないと記録されている。

◇第2回年会

- 第2回年会は明治35年（1902年）7月11日午前9時より12日にかけて、東京・日本橋基督同胞教会にて開催された。

出席者は10名。

組織会において、年会書記が2名選出された。眞山義作師を日本語書記に、コーサンド師を英語書記に選出。

- 各教職者が、各教会の現状や任命された事業などの報告をそれぞれ行った。
- 東京霊南坂組合教会牧師の小崎弘道師が年会に招かれ、「教会の自給独立」をテーマに講演を行った。小崎師は体験上での出来事を語られ、その教訓を強調されたとのこと。
- また日本禁酒同盟会会長の安藤太郎氏が招かれ、福音及び禁酒事業に対する同

胞教会が良好なる位置にあることを賞賛され、禁酒主義を貫徹されることを勧告された。その勧告を受け、禁酒主義を推進し、その伝播に尽力していくことが決議された。

- メソジスト教会と合同の問題に関する議案が提出され、今年会より本格的な論議に入った。しかし賛否を判断すべき材料が整わないため、翌年に継続審議となった。合同問題論議をきっかけに、他教会の年会訪問をするため、福音教会、美普教会、メソジスト長老教会、日本メソジスト教会、南メソジスト教会への訪問委員を選定した。

◇第3回年会

- 第3回年会は明治36年（1903年）7月10日午前9時より11日にかけて、日本橋基督同胞教会にて開催された。

出席者はニップ師を除き年会議員全員出席、11名。議長はハワード師。

- 各教職者が、各教会の現状や任命された事業などの報告をそれぞれ行った。
- 岡崎義孝師が「個人伝道」に関して講演を行った。その論旨として、多数の人々を集め伝道せんとすれば、多くの労力を要し、その目的を達成するのは困難である。その点個人伝道は個人の必要に応じて対応していくため、比較的容易に、牧師のみならず一般信徒も実践することができ、有効であると語った。
- またコーサンド師は、「独立教会の動機」について語り、教会の独立は自給と密接な関係を有す、自給は自治の性質を養うため、教会に対する愛を養成し、教師と教会員とを一層密接な関係へと促すこととなると語った。
- 昨年度決議された教役者の階級を同胞教会条例の日本語訳に用いられた用語と一致せしめんことを決議、即ち「監督、長老司、長老、教師補、四季会伝道師及び勸士」である。
- 昨年9月、中島錦五郎師が不品行を行ったため、尋問の末、牧師職はく奪と教会除名が決議されたことを年会として可決した。
- 第3回年会記録において、初めて統計表が記載されるようになった。

明治35年度の主な統計

- | | | | | | |
|-----------------------------------|------|-------------------------------|------|-------------------------------|-----|
| <input type="checkbox"/> 昨年度中会員数 | 148名 | <input type="checkbox"/> 新悔改者 | 43名 | <input type="checkbox"/> 新入会者 | 43名 |
| <input type="checkbox"/> 前年度会員増加数 | 53名 | <input type="checkbox"/> 全会員数 | 189名 | <input type="checkbox"/> 日曜学校 | 9名 |
| <input type="checkbox"/> 役員及び教師 | 20名 | など | | | |

◇第4回年会

○第4回年会は明治37年（1904年）4月8日から9日にかけて、日本橋基督同胞教会にて開催された。

出席者は12名。議長はハワード師。

○各教会からの報告に先立ち、石黒猛次郎師は同胞教会の主義方針を明確にしてほしいと、ハワード議長に要望した。さらに石黒師はハワード議長が米国に帰国された時の、その不在中の同胞教会の活動方針を明らかにしてほしいと要望した。それに対してハワード議長は同胞教会の主義は条例に明らかにされており、それを研究してほしいと答弁した。

○各教会からの報告がなされた。その中で議長はコーサンド師に外国伝道会社委員の報告を指示。コーサンド師は「日本の教会は未だ自給ならず。ゆえにミッションは日本の教会を支援しなければならない。これが大きな問題である。第一に教役者の給料のこと。役者には4つの教職があり、その地位に応じて、また教育経験家族のことを考えていかなければならない。外国伝道会社は、その地位や家族構成によって給与を決定していくこととなる」との報告がなされた。

○米国帰国前のハワード宣教師の演説がなされた。以下演説の大意。

「自分の日本での働きが一先ず終わったと考えている。6年の間最良を尽くしてきたが、度々大いなる失錯をなしてきたこと、しかしその度に励まし、寛大に接してもらったことは感謝である。私はこの国の状態を研究する時、日本の位置の如何に重要なかを感じずる者である。我が同胞教会は日本国内だけではなく、中国や朝鮮など諸外国に伝道していくという使命を得ている。ある人が我が教会の特色は何であるかと質問されたが、我が教会の神学及び条例においては、大体メソジストと異なるところはない。その特色というべきものは、全力を尽くして人間の靈魂を救うということである。

オッターバインは百年の昔、熱心に伝道した。彼は決して教派を作る考えではなかった。只、交通不便等の事情により遂に一宗派となった。故に今日我が教会は如何にしてこの日本幾多の滅びんとする靈魂を救いに導かんか、これが大切な問題である。

我が教会は独立して大事業をなす事は困難である。何故ならばこれらの目的を達するには多くの教役者と青年養成の学校、女学校、及び新聞等諸機関が必要である。また多くの費用を要するからである。余は我が教会の将来を考えるに、我派は率先してメソジスト諸教派と合併せられんことを望む。これ救霊事業を

なすにあたり、緊要なことであると信ずるからである。

終わりに兄弟たちよ。私は今諸君と離れ、米国に帰国するが、常に諸君を記憶し、諸君のために祈り、諸君を助けんことを望む。願わくは諸君がイエス・キリストの名のために忠実に働かれんことを祈る」と語った。

○明治36年度統計

教職者9名 全会員数191名 伝道地の総数18カ所

◇第5回年会

○第5回年会は、明治38年（1905年）4月7日～8日に、京都基督同胞教会にて開催された。

出席者12名。

○各教会からの活動報告、また年会員資格調査委員会、教会自給委員会、統計委員会、伝道師試験委員会などの各委員会報告が行われた

○討議の中では、教会自給に関する議論が活発になされた。その中で教会自給委員会では、各教会員に自給を奨励し、半分を我国伝道会社に納め、他半分は牧師の増給としていくことを決議したことが報告された。また伝道費として教会員一人につき、1年間30銭を納めるべきことを決議したことも報告された。

◇第6回年会

○第6回年会は、明治39年（1906年）4月13日～14日、本所基督同胞教会にて開催された。

出席者は13名。議長はハワード師。

○会の冒頭、ハワード総理が開会演説を行った。以下大要。「ハワード総理が米国帰国中に、米国の日曜学校が隆盛であることが報告され、日本においても日曜学校の活動が活発化される必要があること。またユニテリアン教会の伝道の不成功に対し、正統的教会が進歩している現状から、同胞教会と美普、組合教会との合同を推進していく必要があることを高調された」

○各教会からの伝道活動報告、教勢報告がなされた。

○岡崎義孝師より「今後の同胞教会が取るべき伝道方針」について演説があり、「それぞれの使命を自覚し、旗色を鮮明にして堂々と活動すること。伝道地の選択を注意すること。教役者を適材適所に配置すること。各教会併合の集中伝道、機関新聞の発行の必要性、教会の自給独立」が論じられた。

- その後も教会自給問題が議論され、各教会は目標・計画を立てて、毎年の自給額を設定し、増加させていく必要性など、積極的な意見交換がなされていた。
- 日本メソジスト教会の代表コーツ師が招かれ、メソジスト教会に於ける教会独立の解決及びその精神が語られ、メソジスト教会と同胞教会の精神上、また組織においても一致合同することを望まれ、かつ今日の伝道の急務なることを述べ、多大な同情が語られた。
- 「日本基督同胞教会老朽教役者及び年会受惠者扶助法」が可決される。

◇第7回年会

- 第7回年会は、明治40年（1907年）4月3日～6日、日本橋基督同胞教会にて開催された。
出席者は14名。議長はハワード師。
- ハワード議長による開会演説では、「昨年度の米国の外国伝道会社の事業概要、また日本の伝道所、日曜学校、会員、献金額など統計表に表われた現状は大変進歩している」との評価が語られた。
- 各教会、各委員会からの現状報告がなされた。

◇第8回年会

- 第8回年会は、明治41年（1908年）4月17日～19日、静岡基督同胞教会にて開催された。
出席者は12名。議長はミルス師、副議長がハワード師。
- 会の冒頭、監督であるミルス議長による開会演説。その大意として「年会を開催することは、神の愛により、相互に会合し、各自の一年間の従事の結果と教勢を報告し、それを相対評価し、奨励を得、新知識を学ぶなどの利益を得ること。また将来の伝道に関する新知識を学ぶなどの利を得ること。そして米国において昨年度の伝道状況の著しい進歩をなしたことを励みとすること」と奨励した。
- 各教会、各委員会からの現状報告がなされた。
- 各委員会の委員選任が行われた。
新伝道地状況調査委員、学科試験委員、伝道委員、プログラム委員、老朽者扶助委員、訪問委員、任命委員、教会条例改定委員
- 年会記録では、第8回年会から牧師、伝道師の任地が任命されたとの記録が残されている。

第8回から任地任命が始まったのかは不明。

◇第9回年会

○第9回年会は、明治42年（1909年）3月4日～6日、大津基督同胞教会にて開催された。

出席者は16名。議長はハワード師。

○開会にあたり、ハワード議長から開会演説で「教会に対する将来の希望」を語られた。その大意として「本年会について10年前における我が同胞教会創立当時の教役者の中で、多くの方が永眠された。今、智慧に富める青年たちを訓育し、神の国拡張を計るを要すと。しかし我が教会の過去の伝道方法は幼稚にして牧師の勢力は弱く、信徒の教会に対する責任も明確ではない。幸いにも教役者にも、牧会にあたる場所にも好望に地あり。よって一致団結して各自奮闘努力して、業の発展を期して待つべし。特に本年は訪問伝道の方面に力を尽くさんことを望む」と述べられた。

○懇談会が以下のテーマで開催される。

自給独立、教会経営、教育、機関雑誌、部会設立、伝道、教会財政、教会建築、予算編成など

○部会制を敷くため、第五條にわたる「部会規則」を制定、決議された。

○また以下の決議文が満場一致で可決された。

「日本基督同胞教会第9年会は、天父の聖旨と時代の要求、今や特に我が徒の上切なるを感じ、満場一致を以て明治40年度中各教会協同提携、大いに伝道財政の伸張に努め必ず各年度に倍する成果を得ん事を決議す」。標語はピリピ書3章13節。

○他教派との交際委員は毎年任命されていると思われる。

今年度は美普教会へ岡崎義孝師、福音教会へ水口豊次郎師、メソジスト教会へ大野義信師が、それぞれ任命されている。

◇第10回年会

○第10回年会は、明治43年（1910年）3月24日～27日、4日間にわたり、京都基督同胞教会にて開催された。

出席者は18名。議長はハワード師。

○1日目夜、懇談会が開催され、如何にして信徒の代表者を年会に出席せしむべ

きか、また教会自治独立と副事業の問題、本年度中の伝道方針、特別運動について活発な議論が行われた。

○部会規則草案が上程され、8つの条項からなる規則が議論された。

主な内容としては、部会は宣教師、牧師及び教会を以って組織し、年一回例会を開く。部会は部内教勢の興隆を計り、連合提携教会及び附属施設の発展を目的とする。部会には部会長1名及び各部会に幹事1名を置くなど。部会幹事として、関西部会に石黒猛次郎師、中央部会に関平師、関東部会に牧野典次氏がそれぞれ任命された。

○信徒会も開催され、会后、連合信徒会の設立の決議がなされ、準備委員が任命された。

◇第11回年会

○第11回年会が、明治44年（1911年）4月7日～9日、日本橋基督同胞教会にて開催された。

開会時の出席者は教役者14名、教会信徒代表6名。議長はハワード師。

○今年会より、教会代表者（信徒）が年会に出席される。

○福音教会の代表、日本メソジスト教会代表が招かれ、年会に対する祝辞を述べられるが、特に合同問題に対して、具体的な議論は進んでいないように思われる。

◇第12回年会

○第12回総会は、明治45年（1912年）2月7日～9日、原宿基督同胞教会にて開催された。

開会時の出席者は教役者15名、教会信徒代表5名。議長はハワード師。

○雑誌「同胞」に関する件が上程され、「同胞」を基督教世界に合併せしめんとする議案もあるが、反対があり。大体の意見は、内容を充実改善せしめて伝道に適するものとならしめ、多くの購読者を募って、内外共に一段の進歩させることが肝要。

○日本宣教師会と外国伝道会社の執事ハツフ博士との協議の記録に関して、1項目ずつ説明がなされた。その中で、部会に対して二区分説と三区分説を主張する意見があるが、コーサンド師は年会区域は二地方に区分するとするミッション側の意見を説明した。また今後5年間にミッションは自給教会を作るため、特別の教会に全力を注いでその期間内の成績を見ることとする。

また将来の我が教会の自給独立が成立する場合、建築物などの所有権はどこに属するののかとの質問に対しては、ハワード師は、恐らく年会社団の所属になると答弁した。

さらに教会の自給独立の精神を養うため、ミッションからは従来は直接牧師に給与を支給していたが、今後は一切の費用を、教会会計へ送付し、それを経て牧師に支給することになるとの報告があった。

○各派の代表者が招かれており、それぞれ挨拶がなされた。

クリスチャン教会代表者は、小教派合同に関する感想を述べられ、将来益々両教派の提携の必要性を語られた。福音教会代表は、小教派合同の機運が熟し来たらんことの希望を語られた。日本メソジスト教会代表者は、メソジスト教会と同胞教会とがその設立の原始において、互いに兄弟として親密なる関係にあることを述べ、教会の歴史学上、教勢消長の原因は活ける熱烈なる信仰の有無に期することを語られた。

○第10回年会で議論された「部会規則草案」の修正案が上程され、決議された。主な内容としては、「同胞教会年会区域を二分して二個の部会を置く。名古屋市以西を関西部会、以東を関東部会とする。

部会は宣教師、牧師、婦人伝道者及び各教会役員を以って組織する」ことなどが決議された。

○明治45年時点の教会数18

本所、日本橋、原宿、渋谷、大久保、野田、松戸、船橋、小田原、沼津、静岡、名古屋、草津、大津、京都、洛西、大阪、神戸各基督同胞教会
 教会員数 898 名 1年間の受洗者数 104

◇第13回年会

○第13回年会が、大正2年（1913年）3月6日～9日、4日間にわたり、京都基督同胞教会にて開催された。

開会時出席牧師14名 番外議員4名、信徒代表者7名。議長はコーサンド師。

○統理と監事が、先帝陛下御不例の際、同胞教会を代表して宮内庁に出頭し、天機を奉伺し、御大葬の当日は、青山葬場殿に拝送せられたことが報告された。

○今年会では、日曜学校事業についての、多くの時間を割き、議論が深められた。岡崎義孝師が日曜学校事業の発展について以下のような報告を語った。

「日曜学校教師をいかに養成するかが求められている。昨年東京で日曜学校の

生徒の集会を日比谷公園で催し、一万人以上集まった。そのことは日曜学校の存在及びその運動において深き印象を天下の人心に与えたことは確かである。そのような催しを数々実施し、益々日曜学校を隆盛に導かんことを欲す。四月初旬来朝の東洋日曜学校視察団米国ハインツ一行を迎えて、大阪にて日曜学校協会大会を催す予定である」と。

- ハワード総理の紹介により、日本美普教会名古屋教会牧師水野師並びに四日市教会牧師酒井師が演説をする。その大意として酒井師は「今回初めて同胞教会年会を訪問し、貴教会の盛んなる活動の様子を拝見し、衷心実に喜びを感じている。ハワード総理が語られたように、米国においては、今や両教会の合同に対する希望交渉が着実に運んでおり、日本においてもこの際一層親睦を深め、目的のために尽力し、この好機運に乗じて、尚一步を進めたいと希望している」と。

また水野師は「我々日本におけるこの二つの教派は、年毎に親交を深めつつあり、顧みれば、我が教会も今日まで幾度となく他教会との合同が叫ばれたことがあるが、未だその機に達していない。今回米国において両教会が互いに合同の必要を感じ来りて、その機運に相近づきつつあることは、希望の実現がなされようとすると感じ、深く喜んでいるところである。思うに貴教会と我が教会との状態を種々なる方面より観察すれば、最も親しく相似たる所もあり、最もよく相似たる両者が結婚する時には、最も善き一家庭を作り得るものと信じている」との報告がなされた。